

まちの話題



春の市



3月12、13日に開催された『春の市』は、あたたかい日のおかげで多くの人を訪れ、植木や日用品の露店は、品定めのお客さんで賑やかでした。

ぎっしりと露店が立ち並んだ商店街を、花飾りや米俵などを着け、小さくはねて首にかけた鈴を「シャンシャン」鳴らし登場した「鈴かけ馬」。後方には三味線、太鼓と続き、人馬一体となって、華やかに盛り上げてくれました。

また、通りの交差点には、東北地方太平洋沖地震の被災者へ義援金を届けようと、商工会が募金箱を設置し、2日間でおよそ32万円が集まりました。義援金は、南日本新聞社を通じて、被災地へ届けられます。

農産物等の収穫から販売まで行いました。
みごと完売です。



東京の大学生20人による伊佐の農産物販売



募金、献血

ありがとうございます！



スパイキッズ第三弾!! 怪盗大作戦

怪盗から指令を受けた“キッズ”が春の市に侵入したスパイから情報を聞き出し“宝もの”をゲット!!



私キレイでしょ♪



バナナの叩き売り

威勢のいい調子と巧妙な口調で、お客さんの足を止め次々とバナナを売りさばっていました。値段は・・・

ふれあい1日遠足



3月5日、伊佐市子ども会育成連絡協議会主催の「ふれあい1日遠足」が、実施されました。

例年は韓国岳登山ですが、今回は新燃岳噴火で目的地を霧島アートの森に変更しました。

目的地が急遽変更されましたが、参加した子ども達は日頃見ることのできない野外アートを堪能したあと、日本一の枕木階段（561段）を登り、はるかに見渡せる大パノラマ（伊佐平野、錦江湾、桜島など）を見るなど、身近で素晴らしい体験ができました。

みんな‘笑’すまいる



「おぎゃー献金」発祥の地、大口上町の遠矢産婦人科病院跡に「子ども交流支援センター笑（すまいる）」が完成し、3月26日に開所式がありました。

この施設は、子育て支援の総合相談機能をもつ県内初の施設であり、市が目指す「日本一子育てに優しいまち」の中核施設誕生を児童デイサービス施設「たんぼぼ」の子ども達と祝いました。

施設建設にあたり、次の企業・団体等からご支援をいただきました。

- 公益財団法人 日母「おぎゃー献金基金」様
- 株式会社 YPK ユピテル 様
- 医療法人慈和会 大口病院 様
- 遠矢善栄医師ご遺族 様

ここに掲載できなかった方々を含め、皆さまに心から感謝いたします。

新燃岳降灰対策会議



3月2日、市や県の担当者のほか、葉たばこや野菜などの生産農家も出席し、「新燃岳降灰対策会議」を行いました。

新燃岳からの距離は菱刈が25キロ、大口は30キロで、これは激しい降灰となった宮崎県都市までとほぼ同じ距離になります。

新燃岳上空の風向きは、5月、8月、9月に伊佐市方向に吹く傾向があり、農作物への影響を心配する声が聞かれました。

爆発や噴火は今後も続くものとみられることから、噴火に伴う降灰・噴石などに警戒し、今後の情報に注意してください。

い～さ竹林の学校



2月22日、大口金波田の民有林で「しいたけの種駒打ち体験」が開催されました。

参加したあゆみ保育園の園児45人の指導にあたったのは、主催である森林ボランティア団体「い～さ竹林の学校」のメンバーです。

園児たちは、トントンと木づちでリズムカルに種駒を打ち込み、「もう1回やりたい」と喜んでいました。自然を感じ、実りある時間を過ごしたことでしょう。

「あきらめないで」

東北地方太平洋沖地震に対する救援活動を行なうため、伊佐湧水消防本部の緊急消防援助隊 10 人が、3 月 14 日午後、伊佐湧水消防本部を出発しました。派遣職員は、消火部隊・救急部隊・資機材搬送用車両 3 台に分乗し、県内各地の派遣部隊およそ 100 人と合流した後、被災地へ向かいました。

伊佐市では、被災地の救済、復興に役立てていただくため、福島県・宮城県・岩手県の災害対策本部にそれぞれ 3 トンの救援米を送り、市内数か所で、義援金・支援物資の受付を行なっています。

被災された方々、ご家族の皆さまに、心よりお見舞い申し上げるとともに一日も早い復興をお祈りします。



徳辺地区県知事表彰



3 月 11 日、徳辺地区集落運営委員会へ「河川愛護運動」優良団体として県知事表彰を受けられました。

同団体の長年にわたる、地区内の重留川流域の草刈やゴミ清掃といった河川愛護の功績が認められたものです。

これから私たちも、ふるさとの自然にやさしい活動を行いたいものです。

市内最後の牛セリ



3 月 11 日、伊佐家畜市場で最後の子牛競り市がありました。

今回は、492 頭の子牛が市場に出され、平均で前回は 2 万 7 千円ほど上回る価格で売買されました。

次回からは、薩摩中央市場での競り市に変わります。これまでの年間 6 回から毎月の開催になり、畜産農家の計画的な出荷が期待されます。

「夢は近づけば、目標に」



市職員である西方淳一さんが、甲子園球場で開催された第 83 回選抜高等学校野球選手権大会に、派遣審判委員として参加しました（3 月 23 日～4 月 3 日）。派遣審判委員は全国から 8 人のみで、鹿児島県代表として伊佐市から参加するのは、13 年ぶりのこと。

野球少年であった西方さんにとっては、まさに「夢の舞台」。審判員として長年の目標でもあった甲子園であり、高校球児たちと同じくらい数々の想いが凝縮された“甲子園出場”となりました。